

(資料7)

ウルメイワシ太平洋系群に関する 資源管理の基本的な考え方

令和3年11月29日(月)

第2回資源管理手法検討部会
～ウルメイワシ太平洋系群～

水産庁

目 次

1. 資源評価の結果について

2. 関係地域の現状について

3. 本部会で議論する事項について

(1) 全体に関する御意見

(2) 各論に関する御意見

- ① 検討の対象となる水産資源の漁獲報告の収集体制の確認
- ② 資源評価結果に基づく資源管理目標の導入に当たって考慮すべき事項
- ③ 検討すべき漁獲シナリオの選択肢、漁獲シナリオを採択する際の注意事項
- ④ 数量管理を導入・実施する上での課題及びそれら課題への対応方向
- ⑤ 数量管理以外の資源管理措置の内容(体長制限、禁漁期間等)
- ⑥ 予め意見を聞くべき地域、漁業種類、関係者等の検討
- ⑦ ステークホルダー会合で特に説明すべき重要事項
- ⑧ 管理対象とする範囲(大臣管理区分、都道府県とその漁業種類)

(3) そのほかの御意見

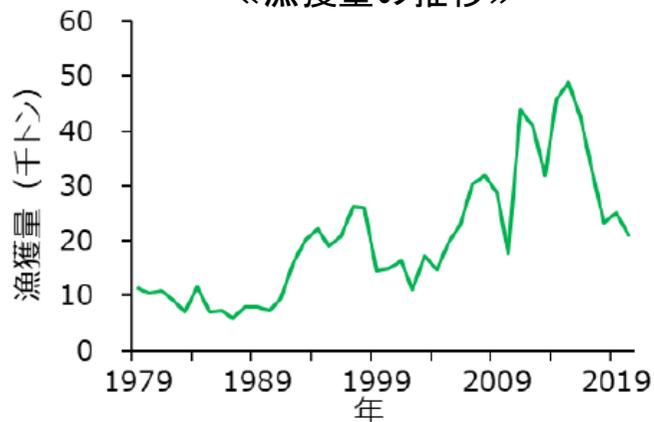
(4) 御意見や論点のまとめ(案)

4. 今後について

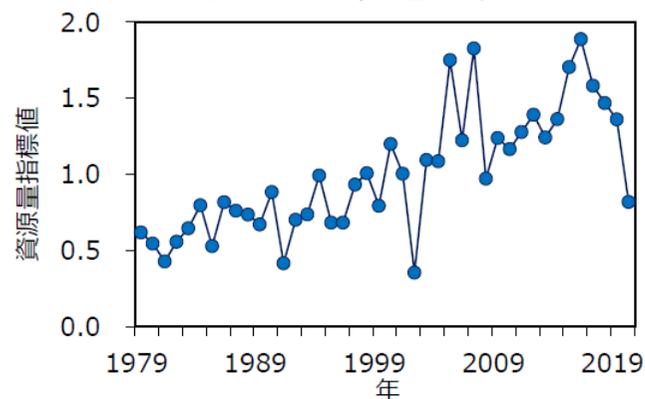
1. 資源評価の結果について

- 漁獲量は、1990年代以降、変動しつつ増加傾向を示したが、2015年に4.9万トンと過去最高となった後は、減少傾向に転じた。2020年の漁獲量は2.1万トンであった。
- 資源量指標値は、卵密度の年変化を表した親魚量の指標であり、平均値が1となっている。1979～2007年は0.36～1.83の範囲で増減を繰り返しながら増加した。2008年に減少した後は再び増加傾向となり、2016年に1.89と過去最高の値となった。その後は減少し、2020年は0.82と大きく減少した。

《漁獲量の推移》



《資源量指標値の推移》



漁獲量(2020年)・・・2.1万トン

案

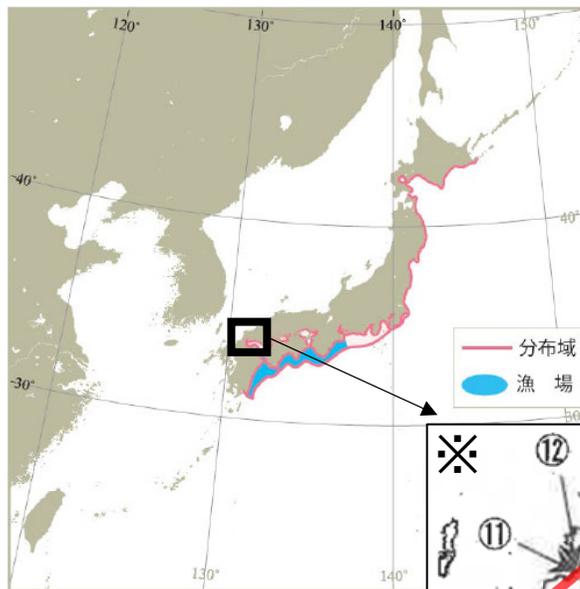
	資源量指標値 (平均値を1とする相対値)	資源量水準	漁獲量を増減させる係数
目標管理基準値 (Target Reference Point: TRP) ≡回復・維持する目標となる資源水準の値	1.34	80%	1.000
限界管理基準値 (Limit Reference Point: LRP) ≡下回ってはいけない資源水準の値	1.06	56%	0.880
現在の値(2020年)	0.82	33%	0.686

- 資源量指標値の推移から求めた資源量水準と目標管理基準値案および限界管理基準値案の位置関係に基づき漁獲量を増減させる。
- 2020年の資源量水準は33%であることから、2022年の漁獲量は2.0万トンと算出される。

2. 関係地域の現状について ～まとめ～

- 日本周辺に広く生息しており、本系群はこのうち太平洋沿岸と瀬戸内海に分布する。
- 主にまき網、定置網により漁獲される。和歌山県では棒受網、高知県では多鈎釣でも漁獲される。仔稚魚(シラス)期は船びき網で漁獲される。漁獲の大部分は0歳～1歳である。宮崎県～三重県の漁獲量は太平洋岸各県(宮崎県～千葉県)の総漁獲量の約80%を占める。外国船による漁獲はない。

《分布図》



分布・回遊範囲は沿岸域に集中する。漁場の中心は日向灘～熊野灘の沿岸域である。

《参考:漁獲シェア表》

	3か年平均					5か年平均		
	H25-H27	H26-H28	H27-H29	H28-H30	H29-R1	H25-H29	H26-H30	H27-R1
大臣管理分合計	7.0%	5.8%	6.9%	6.9%	5.7%	7.7%	6.0%	5.7%
大中型まき網	7.0%	5.8%	6.9%	6.9%	5.7%	7.7%	6.0%	5.7%
その他の大臣管理区分	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
知事管理分合計	93.0%	94.2%	93.1%	93.1%	94.4%	92.3%	94.0%	94.3%
北海道	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
青森	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
岩手	0.0%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%
宮城	0.1%	0.2%	0.4%	0.6%	0.6%	0.3%	0.4%	0.5%
福島	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
茨城	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
千葉	0.9%	0.8%	0.5%	0.6%	0.5%	0.8%	0.7%	0.5%
神奈川	0.5%	0.4%	0.4%	0.4%	0.6%	0.5%	0.4%	0.5%
静岡	0.8%	0.9%	1.2%	1.8%	1.8%	1.0%	1.3%	1.5%
愛知	0.2%	0.2%	0.1%	0.1%	0.1%	0.2%	0.1%	0.1%
三重	31.3%	33.1%	26.6%	18.6%	14.4%	27.4%	27.3%	19.7%
大阪	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
兵庫(瀬戸内海)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
和歌山	4.6%	3.7%	3.8%	2.9%	2.0%	4.2%	3.3%	2.7%
岡山	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
広島	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
山口(瀬戸内海)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
徳島	0.2%	0.2%	0.1%	0.1%	0.1%	0.2%	0.2%	0.1%
香川	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.0%	0.1%	0.1%	0.1%
愛媛	11.5%	13.6%	15.2%	14.4%	12.1%	13.0%	13.4%	13.6%
高知	10.1%	11.5%	13.3%	15.5%	17.9%	12.0%	13.3%	15.7%
福岡(瀬戸内海)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
大分	3.6%	3.2%	4.0%	4.4%	5.8%	4.0%	3.8%	4.6%
宮崎	29.1%	26.2%	27.4%	33.6%	38.3%	28.6%	29.6%	34.6%

※資源評価上の境界線(農林水産統計の「瀬戸内海区」と「東シナ海区」の境界線)は、⑪:福岡県北九州市旧門司漁業地区と田野浦漁業地区の境界と⑫:山口県下関市下関漁業地区と壇ノ浦漁業地区の境界である。

※黄色マーカーは全体上位80%に含まれる値

2. 関係地域の現状について ～大中型まき網～

ウルメイワシを漁獲する漁業の特徴

- 一部で狙って漁獲する場合を除き、サバ・マイワシ等狙いの操業で混獲される場合が多い。北部太平洋海域の占める割合が高いが、年によっては北部太平洋以外の海域でもまとまった漁獲が見られる。
- 北部太平洋海域では主に初夏から初冬にかけて漁獲がみられる。沖寄りで操業する中型船(80トン型(含む、構造改革船))、沿岸寄りで操業する小型船(19トン型(北部太平洋海区のみ))等により漁獲される。
- 混獲が主であり、サバ・マイワシの漁獲状況にも左右され、漁獲量の水準は、必ずしも資源状況と一致するわけではない。同様に混獲の実態も一様ではなく、複数魚種間の状況等により変化する。

全体に占めるシェア

3か年平均				
H25-H27	H26-H28	H27-H29	H28-H30	H29-R1
7.0%	5.8%	6.9%	6.9%	5.7%

5か年平均		
H25-H29	H26-H30	H27-R1
7.7%	6.0%	5.7%

※黄色マーカーは全体上位80%に含まれる値
 ※大中まき網のシェアは魚績をベースに計算

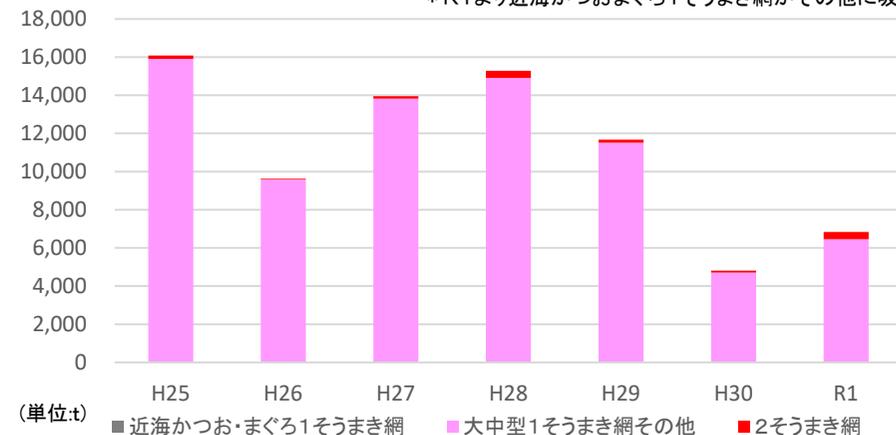
漁業種類別 漁獲実績

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
近海かつお・まぐろ1そうまき網	17	6	9	18	1	17	*
大中型1そうまき網その他	15,888	9,577	13,812	14,890	11,511	4,697	6,453
2そうまき網	177	39	125	377	165	97	383

※全国での漁獲総計を記載

(単位:t 農林水産統計より)

* R1より近海かつおまぐろ1そうまき網がその他に吸収された



※公表データのみ使用(xの内訳は使用していない)

資源管理措置の内容

- 海域毎に許可隻数、操業海域等が制限。他魚種操業も含め、年間、60～72日以上 of 休漁を実施。

2. 関係地域の現状について ～北海道～

ウルメイワシを漁獲する漁業の特徴(大臣許可漁業を除く)

- ウルメイワシを狙って操業している漁業はなく、大型定置網に混獲される程度である。

全体に占めるシェア

3か年平均

H25-H27	H26-H28	H27-H29	H28-H30	H29-R1
0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

5か年平均

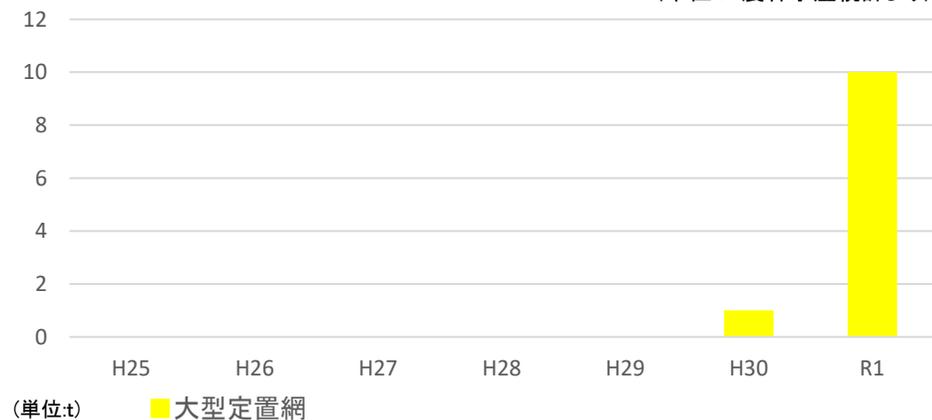
H25-H29	H26-H30	H27-R1
0.0%	0.0%	0.0%

※黄色マーカーは全体上位80%に含まれる値

漁業種類別 漁獲実績

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
大型定置網	0	0	0	0	0	1	10
さけ・ます流し網	0	0	x	x	0	0	0
中・小型まき網	0	0	0	0	0	x	x
船びき網	0	0	0	0	0	0	x

(単位:t 農林水産統計より)



※公表データのみ使用(xの内訳は使用していない)

数量管理以外の資源管理措置の内容

- 特に無し

2. 関係地域の現状について ～岩手県～

ウルメイワシを漁獲する漁業の特徴(大臣許可漁業を除く)

- 95%以上が定置網で漁獲。
- 定置網では5月～12月に漁獲。
- 当該系群の定置網における年間魚種別漁獲割合は、1%未満で混獲レベル。

全体に占めるシェア

3か年平均

H25-H27	H26-H28	H27-H29	H28-H30	H29-R1
0.0%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%

5か年平均

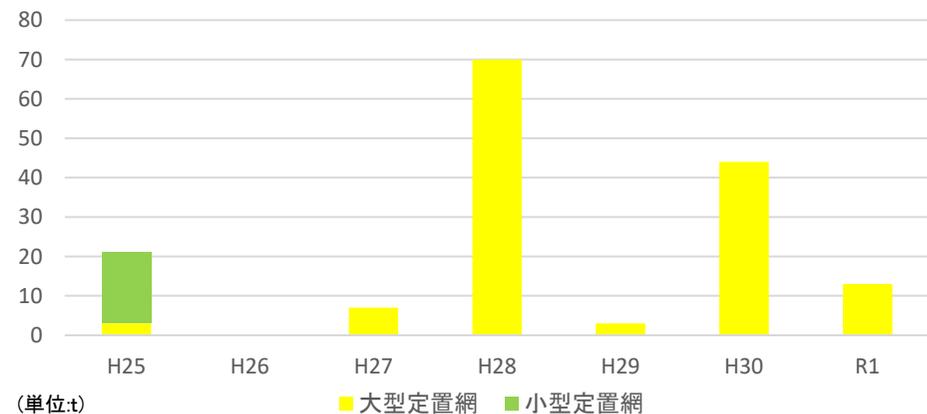
H25-H29	H26-H30	H27-R1
0.1%	0.1%	0.1%

※黄色マーカーは全体上位80%に含まれる値

漁業種類別 漁獲実績

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
大型定置網	3	0	7	70	3	44	13
小型定置網	18	0	0	0	0	0	0
かじき等 流し網	x	x	x	x	x	x	x
さけ・ます流し網	x	x		0	0	0	0
沿岸まぐろはえ縄	0	0	0	0	x	0	0

(単位:t 農林水産統計より)



(単位:t)

■ 大型定置網 ■ 小型定置網

※公表データのみ使用(xの内訳は使用していない)

数量管理以外の資源管理措置の内容

- 特に無し

2. 関係地域の現状について ～宮城県～

ウルメイワシを漁獲する漁業の特徴(大臣許可漁業を除く)

- 9割以上が定置網による漁獲。
- 定置網では6～7月及び10～11月に来遊があり、混獲される。
- 年変動はあるものの、近年増加傾向にある。
- 本県では需要がなく、ほとんどがミール用として扱われている。

全体に占めるシェア

3か年平均

H25-H27	H26-H28	H27-H29	H28-H30	H29-R1
0.1%	0.2%	0.4%	0.6%	0.6%

5か年平均

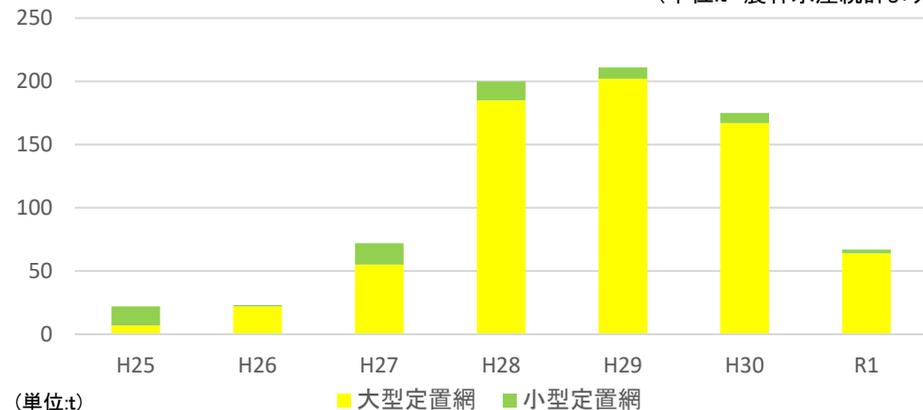
H25-H29	H26-H30	H27-R1
0.3%	0.4%	0.5%

※黄色マーカーは全体上位80%に含まれる値

漁業種類別 漁獲実績

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
大型定置網	7	22	55	185	202	167	64
小型定置網	15	1	17	15	9	8	3
沿岸まぐろはえ縄	x	x	0	0	x	0	0
その他の網漁業	0	0	0	0	0	0	x

(単位:t 農林水産統計より)



※公表データのみ使用(xの内訳は使用していない)

数量管理以外の資源管理措置の内容

- 数量が少なく、混獲レベルであるため特に行っていない。

2. 関係地域の現状について ～茨城県～

ウルメイワシを漁獲する漁業の特徴(大臣許可漁業を除く)

- ウルメイワシを狙って操業している漁業はなく、大型定置網に混獲される程度である。

全体に占めるシェア

3か年平均				
H25-H27	H26-H28	H27-H29	H28-H30	H29-R1
0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

5か年平均		
H25-H29	H26-H30	H27-R1
0.0%	0.0%	0.0%

※黄色マーカーは全体上位80%に含まれる値

漁業種類別 漁獲実績

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
大型定置網	x	x	x	x	x	x	x
その他のはえ縄	0	0	x	0	0	0	0

(単位:t 農林水産統計より)

数量管理以外の資源管理措置の内容

- 特になし

2. 関係地域の現状について ～千葉県～

ウルメイワシを漁獲する漁業の特徴(大臣許可漁業を除く)

- 定置網、中型まき網で主に漁獲している。漁業種類ごとの割合は来遊状況により異なる。
- 主な対象魚種ではないが、地先への来遊があれば漁獲される。
- 鮮魚向けのほか、一部の地域では水産加工原料としても利用されている。

全体に占めるシェア

3か年平均				
H25-H27	H26-H28	H27-H29	H28-H30	H29-R1
0.9%	0.8%	0.5%	0.6%	0.5%

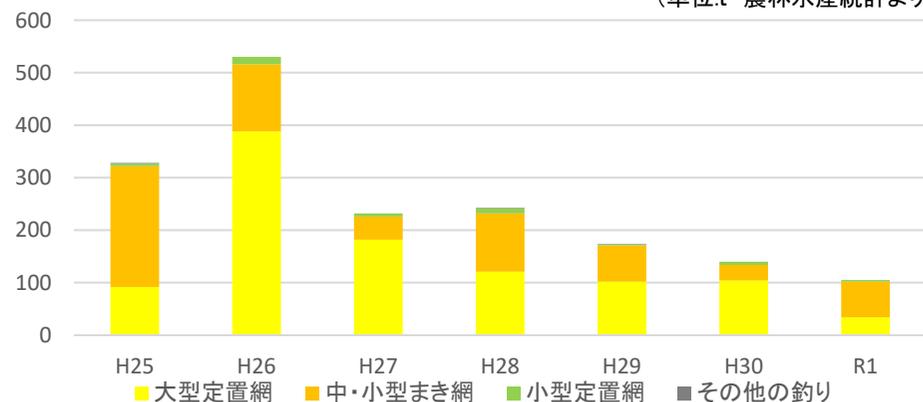
5か年平均		
H25-H29	H26-H30	H27-R1
0.8%	0.7%	0.5%

※黄色マーカーは全体上位80%に含まれる値

漁業種類別 漁獲実績

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
大型定置網	92	388	182	121	102	104	34
中・小型まき網	230	128	44	111	69	30	68
小型定置網	5	14	6	10	2	6	3
その他の釣り	1	0	0	1	1	0	0
かじき等 流し網	x	x	x	x	x	x	x
さけ・ます流し網	x	x	0	0	0	0	0

(単位:t 農林水産統計より)



(単位:t)

※公表データのみ使用(xの内訳は使用していない)

数量管理以外の資源管理措置の内容

- 資源管理計画により、定置網・中型まき網ともに休漁日を設定。
- 漁業者間の民間協定等により操業区域や期間の制限。

2. 関係地域の現状について ～神奈川県～

ウルメイワシを漁獲する漁業の特徴(大臣許可漁業を除く)

- 定置網での漁獲が中心。
- 定置網、まき網とも他の魚種に混獲される程度。本種を狙って漁獲する漁業はない。

全体に占めるシェア

3か年平均

H25-H27	H26-H28	H27-H29	H28-H30	H29-R1
0.5%	0.4%	0.4%	0.4%	0.6%

5か年平均

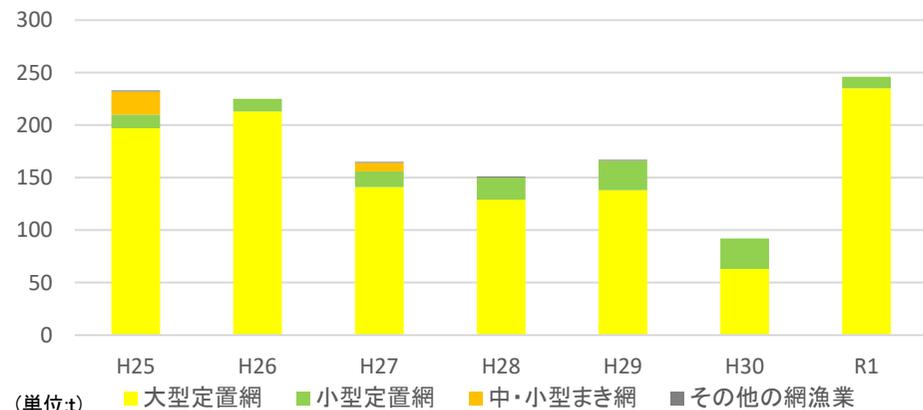
H25-H29	H26-H30	H27-R1
0.5%	0.4%	0.5%

※黄色マーカーは全体上位80%に含まれる値

漁業種類別 漁獲実績

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
大型定置網	197	213	141	129	138	63	235
小型定置網	13	12	15	21	28	29	11
中・小型まき網	22	0	8	0	0	0	x
その他の網漁業	1	0	1	1	1	0	0
ひき縄釣り	0	0	x	0	x	x	x
さんま棒受網	0	x	x	0	0	0	0
沿岸かつお一本釣り	0	0	0	0	x	x	0

(単位:t 農林水産統計より)



※公表データのみ使用(xの内訳は使用していない)

数量管理以外の資源管理措置の内容

- 資源管理計画により、定置網および中・小型まき網は休漁を実施。

2. 関係地域の現状について ～静岡県～

ウルメイワシを漁獲する漁業の特徴(大臣許可漁業を除く)

- 漁獲の約8割が中・小型まき網、2割が定置網。
- 中・小型まき網では5～6月および9～11月に漁獲量が多く、それ以外の時期は他の浮魚類にわずかに混じる程度。
- 定置網では年間を通じて混獲されるが、9～11月に漁獲量が多い。

全体に占めるシェア

3か年平均

H25-H27	H26-H28	H27-H29	H28-H30	H29-R1
0.8%	0.9%	1.2%	1.8%	1.8%

5か年平均

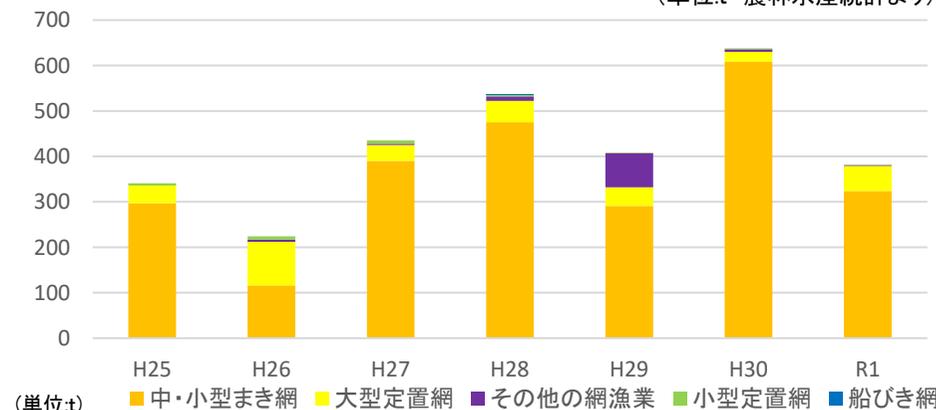
H25-H29	H26-H30	H27-R1
1.0%	1.3%	1.5%

※黄色マーカーは全体上位80%に含まれる値

漁業種類別 漁獲実績

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
中・小型まき網	297	116	390	475	291	609	324
大型定置網	39	96	35	47	41	21	55
その他の網漁業	0	5	3	10	75	6	2
小型定置網	5	7	7	3	1	2	1
船びき網	0	0	0	2	0	0	0
さんま棒受網	x	x	x	x	x	x	x
沿岸かつお一本釣り	0	0	0	0	x	x	0

(単位:t 農林水産統計より)



※公表データのみ使用(xの内訳は使用していない)

数量管理以外の資源管理措置の内容

- 資源管理計画により、中・小型まき網、定置網ともに定期休漁を実施。

2. 関係地域の現状について ～愛知県～

ウルメイワシを漁獲する漁業の特徴(大臣許可漁業を除く)

- ウルメイワシを専獲する漁業はなく、主に船びき網が混獲として漁獲する程度(0歳魚)。
- しらす船びき網にはウルメイワシも数%程度混じる時期がある。

全体に占めるシェア

3か年平均				
H25-H27	H26-H28	H27-H29	H28-H30	H29-R1
0.2%	0.2%	0.1%	0.1%	0.1%

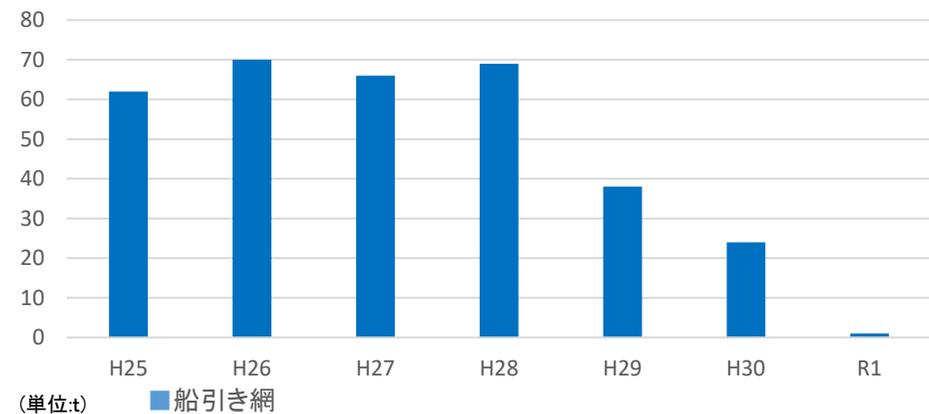
5か年平均		
H25-H29	H26-H30	H27-R1
0.2%	0.1%	0.1%

※黄色マーカーは全体上位80%に含まれる値

漁業種類別 漁獲実績

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
船びき網	62	70	66	69	38	24	1
中・小型まき網	x	x	x	x	x	x	0
ひき縄釣り	0	0	x	0	x	x	x

(単位:t 農林水産統計より)



※公表データのみ使用(xの内訳は使用していない)

数量管理以外の資源管理措置の内容

- 主に混獲であり、漁獲量も少ないため、ウルメイワシを目的とした資源管理は実施していない。

2. 関係地域の現状について ～三重県～

ウルメイワシを漁獲する漁業の特徴(大臣許可漁業を除く)

- 主に未成魚の漁獲で、外洋域の中型まき網と定置網による漁獲が主体。
- 漁獲物の利用先は主に養殖の餌料向け。一部鮮魚や加工原料としての需要がある。
- 中型まき網では主に8～11月に狙って漁獲(主に0歳魚)し、それ以外の時期は他の浮魚類の混獲が中心。
- ここ数年秋季の来遊量が減少し、漁獲量が減少傾向にある。

全体に占めるシェア

3か年平均				
H25-H27	H26-H28	H27-H29	H28-H30	H29-R1
31.3%	33.1%	26.6%	18.6%	14.4%

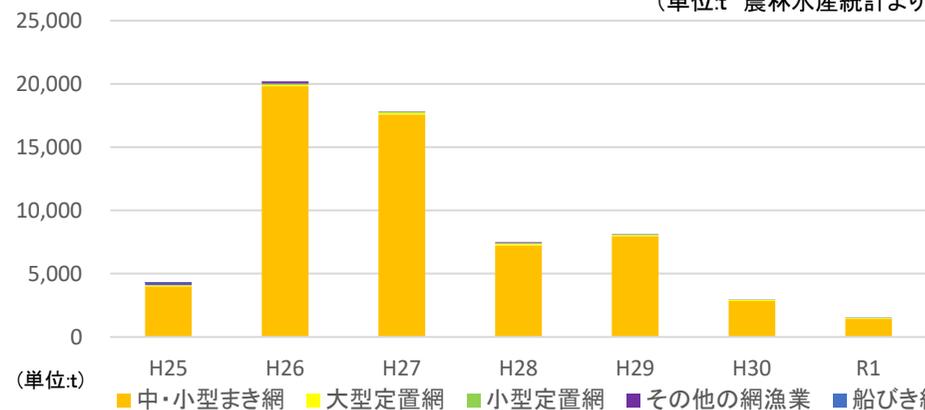
5か年平均		
H25-H29	H26-H30	H27-R1
27.4%	27.3%	19.7%

※黄色マーカーは全体上位80%に含まれる値

漁業種類別 漁獲実績

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
中・小型まき網	3,987	19,824	17,585	7,228	7,965	2,834	1,437
大型定置網	63	91	125	113	76	79	49
小型定置網	66	110	89	75	64	33	35
その他の網漁業	138	176	18	62	22	3	4
船びき網	1	0	0	0	0	0	0
沿岸まぐろはえ縄	0	0	0	x	x	x	x

(単位:t 農林水産統計より)



※公表データのみ使用(xの内訳は使用していない)

数量管理以外の資源管理措置の内容

- 資源管理計画により中型まき網、定置網ともに週1回の休漁を実施。
- 資源管理計画により複数の定置網で夏季の休漁を実施。

2. 関係地域の現状について ～兵庫県（瀬戸内海）～

ウルメイワシを漁獲する漁業の特徴(大臣許可漁業を除く)

- 漁獲がほとんどなく正確な動向は不明。
- 8月から9月頃に、小型定置網、小型底びき網漁業等で混獲されることがある。

全体に占めるシェア

3か年平均				
H25-H27	H26-H28	H27-H29	H28-H30	H29-R1
0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

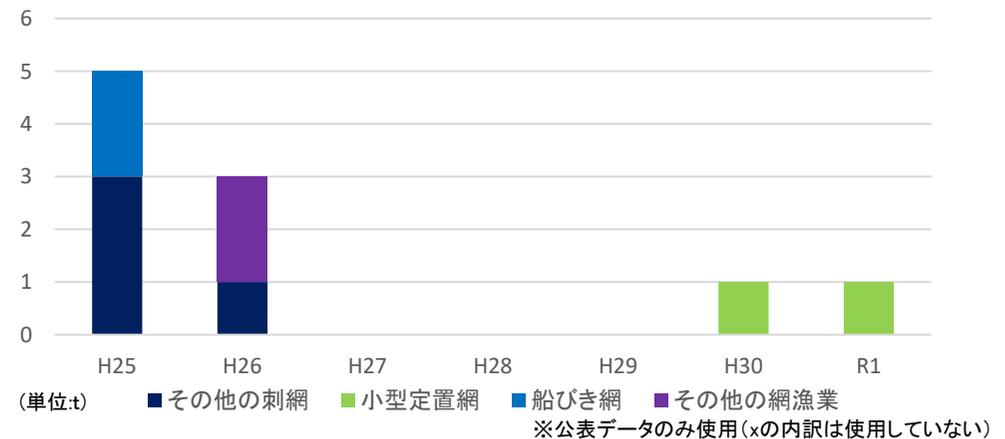
5か年平均		
H25-H29	H26-H30	H27-R1
0.1%	0.0%	0.0%

※黄色マーカーは全体上位80%に含まれる値

漁業種類別 漁獲実績

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
その他の刺網	3	1	0	0	0	0	0
その他の網漁業	x	2	x	x	x	x	x
小型定置網	0	0	0	0	0	1	1
船びき網	2	0	0	0	0	0	0
その他のはえ縄	x	0	x	x	0	x	x
沿岸まぐろはえ縄	0	0	0	x	x	x	0

(単位:t 農林水産統計より)



数量管理以外の資源管理措置の内容

- 各地の資源管理計画において、定置網漁業では一定期間(2週間等)の網上げ、小型底びき網漁業では休漁(週一回等)が実施されており、本種の資源管理にも一定寄与していると考えられる。

2. 関係地域の現状について ～和歌山県～

ウルメイワシを漁獲する漁業の特徴(大臣許可漁業を除く)

- 令和元年は、漁獲量の82%がその他の網漁業(大部分が棒受網)、12%が中・小型まき網。
- 棒受網では、夏季に干物用の0歳魚を狙って漁獲。
- 中型まき網では、かつてはアジ・サバ類の不漁時に1歳魚を狙って漁獲していたが、近年は大きく減少している。
- 漁獲量の減少は、来遊量の減少及び漁業者の減少によると見られる。
- シラスは、船びき網で混獲。

全体に占めるシェア

3か年平均				
H25-H27	H26-H28	H27-H29	H28-H30	H29-R1
4.6%	3.7%	3.8%	2.9%	2.0%

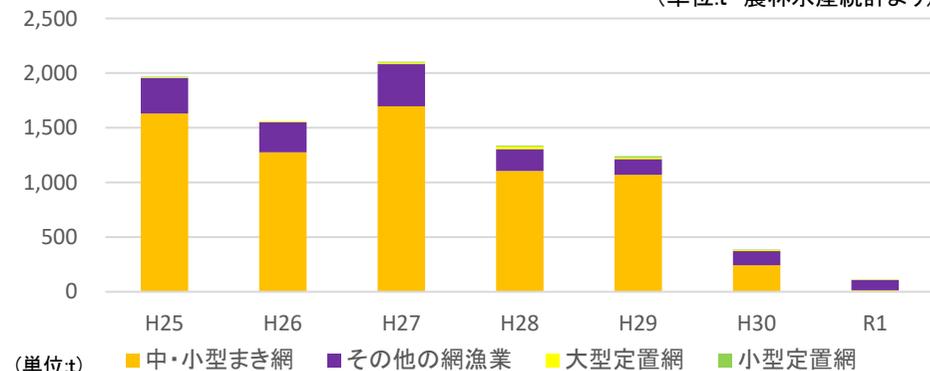
5か年平均		
H25-H29	H26-H30	H27-R1
4.2%	3.3%	2.7%

※黄色マーカーは全体上位80%に含まれる値

漁業種類別 漁獲実績

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
中・小型まき網	1,629	1,275	1,696	1,104	1,069	242	14
その他の網漁業	324	277	385	200	144	129	93
大型定置網	7	9	15	26	15	11	3
小型定置網	6	x	7	7	11	4	3
さんま棒受網	0	x	x	x	x	x	x
沿岸かつお一本釣り	0	0	0	x	x	x	x
その他のはえ縄	0	0	x	0	0	0	0
沿岸まぐろはえ縄	0	0	0	x	0	0	0

(単位:t 農林水産統計より)



※公表データのみ使用(xの内訳は使用していない)

数量管理以外の資源管理措置の内容

- 定期休漁(資源管理計画:棒受網、機船船びき網、地びき網)、操業時間の短縮(瀬戸内海機船船びき網)。

2. 関係地域の現状について ～徳島県～

ウルメイワシを漁獲する漁業の特徴(大臣許可漁業を除く)

- 春から夏に徳島県太平洋岸で小型定置網でマアジ,マイワシ, カタクチイワシとともに漁獲される。近年の漁獲水準は低い。
- 漁獲の大部分は小型魚である。
- 鮮魚として扱われる。
- 船びき網で漁獲されるシラスにウルメイワシ稚魚が混じるがその割合は少ない。

全体に占めるシェア

3 か年平均				
H25-H27	H26-H28	H27-H29	H28-H30	H29-R1
0.2%	0.2%	0.1%	0.1%	0.1%

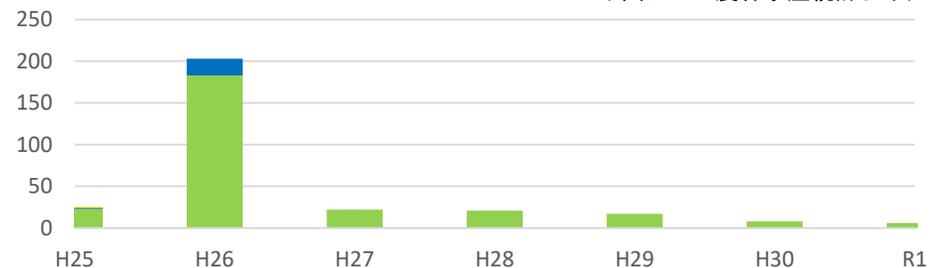
5 か年平均		
H25-H29	H26-H30	H27-R1
0.2%	0.2%	0.1%

※黄色マーカーは全体上位80%に含まれる値

漁業種類別 漁獲実績

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
小型定置網	23	183	22	21	17	8	6
船びき網	1	20	x	x	x	0	0
中・小型まき網	1	0	0	0	0	0	0
沿岸まぐろはえ縄	x	x	x	x	x	x	x
大型定置網	x	x	x	x	x	x	x
沿岸かつお一本釣り	0	0	0	x	x	x	x

(単位: t 農林水産統計より)



(単位: t)

■ 小型定置網 ■ 船びき網 ■ 中・小型まき網

※公表データのみ使用 (xの内訳は使用していない)

数量管理以外の資源管理措置の内容

- 資源管理計画により、小型定置網は年間7日以上、船びき網は年間120日以上、の休漁を実施。

2. 関係地域の現状について ～香川県～

ウルメイワシを漁獲する漁業の特徴(大臣許可漁業を除く)

- 大型定置網、小型定置網が漁獲の中心で、9割以上を漁獲。
- 本県にウルメイワシを狙って漁獲する漁法は無いが、7～8月に主に大型定置網で親魚が混獲されているものと思われる。
- 年によって変動はあるものの、平成30年以降は漁獲が低迷。来遊が少なくなったこと等が主因と考えられる。

全体に占めるシェア

3か年平均

H25-H27	H26-H28	H27-H29	H28-H30	H29-R1
0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.0%

5か年平均

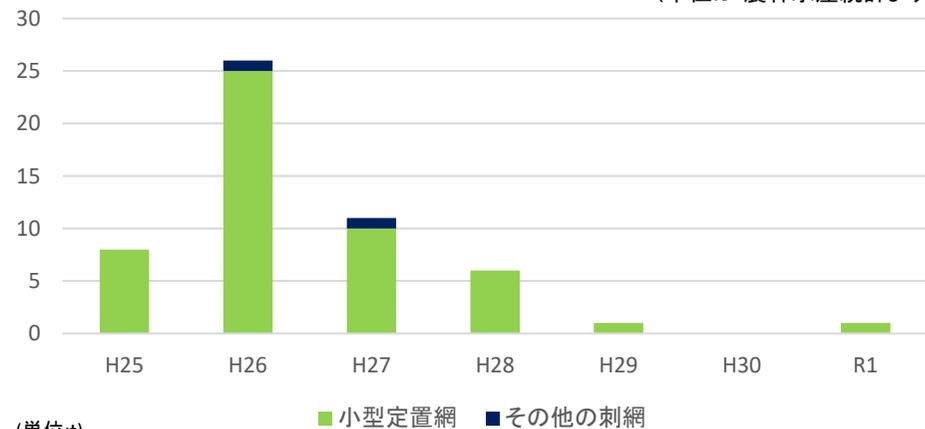
H25-H29	H26-H30	H27-R1
0.1%	0.1%	0.1%

※黄色マーカーは全体上位80%に含まれる値

漁業種類別 漁獲実績

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
小型定置網	8	25	10	6	1	0	1
その他の刺網	0	1	1	0	0	0	0
大型定置網	x	x	x	x	x	x	x
その他のはえ縄	0	0	0	0	0	0	x
その他の漁業	0	x	0	0	0	0	0

(単位:t 農林水産統計より)



(単位:t)

※公表データのみ使用(xの内訳は使用していない)

数量管理以外の資源管理措置の内容

- 資源管理計画に基づき、大型定置網漁業では漁期の短縮に、小型定置網漁業では休漁日の設定。

2. 関係地域の現状について ～愛媛県～

ウルメイワシを漁獲する漁業の特徴(大臣許可漁業を除く)

- 漁獲の9割以上が中・小型まき網。
- 中・小型まき網では7月から3月にわたって漁獲(主に0歳魚)し、それ以外の時期は浮魚類を漁獲。
- ここ数年漁獲が減少しているのは、来遊が少なくなったため。

全体に占めるシェア

3か年平均				
H25-H27	H26-H28	H27-H29	H28-H30	H29-R1
11.5%	13.6%	15.2%	14.4%	12.1%

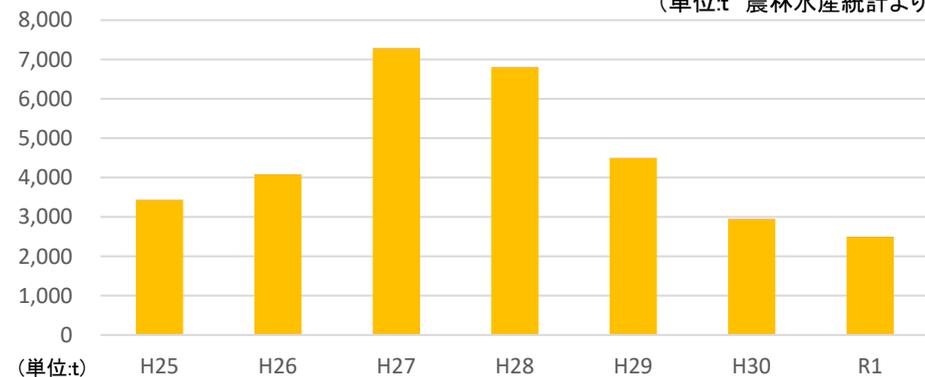
5か年平均		
H25-H29	H26-H30	H27-R1
13.0%	13.4%	13.6%

※黄色マーカーは全体上位80%に含まれる値

漁業種類別 漁獲実績

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
中・小型まき網	3,430	4,079	7,280	6,801	4,492	2,941	2,494
その他の網漁業	1	5	2	4	2	2	3
大型定置網	x	x	x	x	0	0	0
沿岸かつお一本釣り	0	0	0	0	0	x	x
沿岸まぐろはえ縄	x	0	0	0	0	0	0

(単位:t 農林水産統計より)



■ 中・小型まき網 ■ その他の網漁業

※公表データのみ使用(xの内訳は使用していない)

数量管理以外の資源管理措置の内容

- 資源管理計画により、中・小型まき網は月4日以上のお休漁を実施。

2. 関係地域の現状について ～高知県～

ウルメイワシを漁獲する漁業の特徴(大臣許可漁業を除く)

- 中・小型まき網が8割以上、残りを定置網等が漁獲。
- 中型まき網は、ほぼ周年漁獲、1～2月には少ない傾向。定置網は、4月～12月に漁獲・
- 土佐湾内の釣りは、周年漁獲されるが、盛期は12月～3月。
- 近年の漁獲の推移は、減少傾向。太平洋系群の資源動向が減少傾向にあることから、それに起因していると考えられる。

全体に占めるシェア

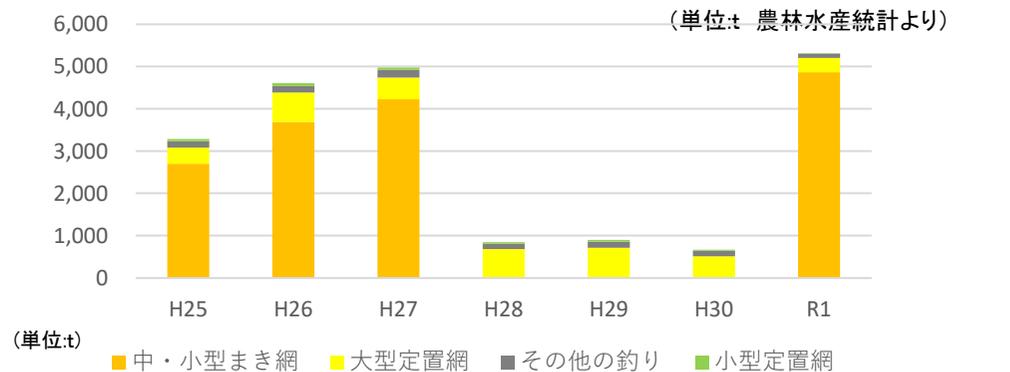
3か年平均				
H25-H27	H26-H28	H27-H29	H28-H30	H29-R1
10.1%	11.5%	13.3%	15.5%	17.9%

5か年平均		
H25-H29	H26-H30	H27-R1
12.0%	13.3%	15.7%

※黄色マーカーは全体上位80%に含まれる値

漁業種類別 漁獲実績

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
中・小型まき網	2,696	3,688	4,225	x	x	x	4,864
大型定置網	386	694	511	680	712	509	338
その他の釣り	149	153	183	128	145	129	101
小型定置網	53	70	54	37	41	28	11
その他のはえ縄	0	0	0	x	x	x	0
小型底びき網	0	0	0	0	0	x	0
その他の網漁業	0	0	0	0	0	0	x



数量管理以外の資源管理措置の内容

- 資源管理計画により、中・小型まき網は1, 2月は月4日以上、3～12月は月1日以上、の休漁を実施。

2. 関係地域の現状について ～大分県～

ウルメイワシを漁獲する漁業の特徴(大臣許可漁業を除く)

- 漁獲量の大部分が中型まき網。
- 近年は6～11月が主漁期で、0～1歳魚中心に漁獲される。
- 年による多少の変動はあるものの、平成25年以降の漁獲量は概ね横ばいとなっている。

全体に占めるシェア

3か年平均				
H25-H27	H26-H28	H27-H29	H28-H30	H29-R1
3.6%	3.2%	4.0%	4.4%	5.8%

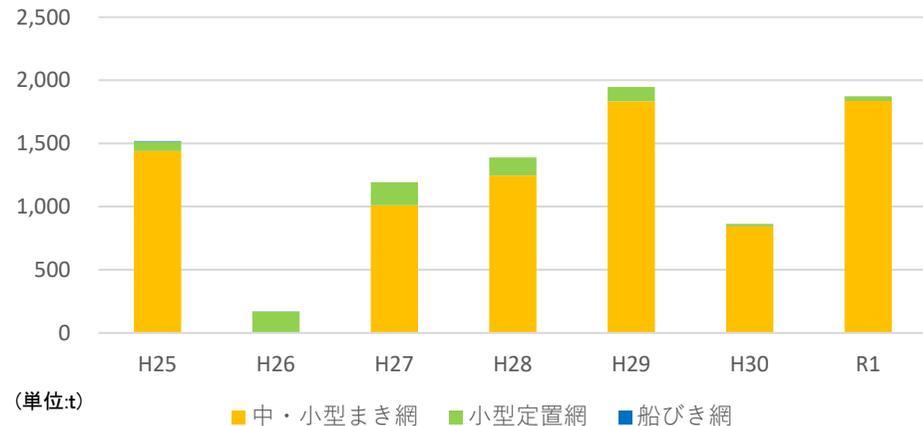
5か年平均		
H25-H29	H26-H30	H27-R1
4.0%	3.8%	4.6%

※黄色マーカーは全体上位80%に含まれる値

漁業種類別 漁獲実績

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
中・小型まき網	1,440	x	1,011	1,245	1,833	842	1,835
小型定置網	75	169	181	144	113	21	37
船びき網	3	1	0	0	0	0	0
大型定置網	x	x	x	x	x	x	x

(単位:t 農林水産統計より)



※公表データのみ使用 (xの内訳は使用していない)

数量管理以外の資源管理措置の内容

- 資源管理計画により、毎月第2土曜日に一斉休漁、旧暦14～18日の中で連続3日以上での休漁(中型まき網のみ)

2. 関係地域の現状について ～宮崎県～

ウルメイワシを漁獲する漁業の特徴(大臣許可漁業を除く)

- 主に中・小型まき網で漁獲。
- 中・小型まき網では主に6月～11月に漁獲(主に0～1歳魚)され、それ以外の時期は他の浮魚類との混獲程度。

全体に占めるシェア

3か年平均

H25-H27	H26-H28	H27-H29	H28-H30	H29-R1
29.1%	26.2%	27.4%	33.6%	38.3%

5か年平均

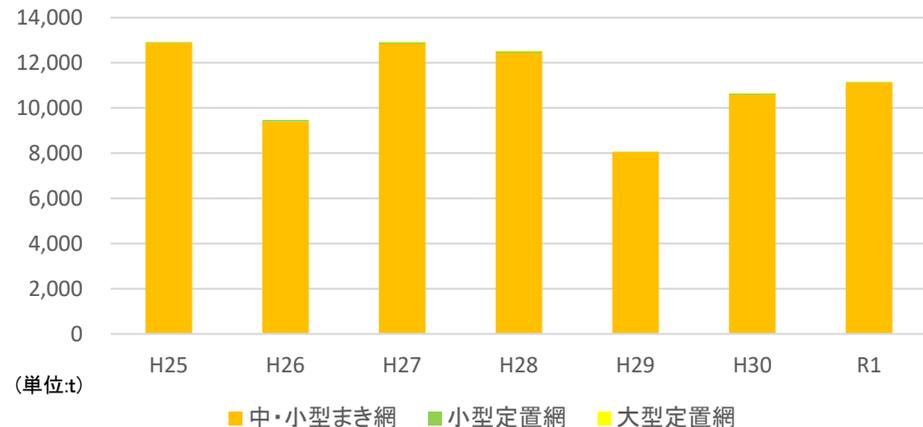
H25-H29	H26-H30	H27-R1
28.6%	29.6%	34.6%

※黄色マーカーは全体上位80%に含まれる値

漁業種類別 漁獲実績

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
中・小型まき網	12,877	9,387	12,843	12,447	8,034	10,572	11,108
小型定置網	35	71	64	59	25	60	36
大型定置網	18	15	28	29	15	29	15
その他の網漁業	x	x	x	x	x	x	x

(単位:t 農林水産統計より)



※公表データのみ使用(xの内訳は使用していない)

数量管理以外の資源管理措置の内容

- 資源管理計画によりまき網では月に連続5日の休漁、パッチ網でも月に5日休漁を行っている。

3. 本部会で議論する事項について

(1) 全体に関する御意見 (1/3)

- 全体
 - 漁獲量の年変動や地域間の差異が大きいことを考慮した柔軟な管理制度が必要。
 - 漁獲減少の原因については、環境変化についても考慮する必要がある。
- まき網
 - MSYを目指し資源管理目標にできなかった理由を知りたい。
 - 混獲が主体で漁獲量変動が大きいため、ウルメイワシのTAC配分によって、もともと狙っている魚種の操業が制限されてしまうことが懸念。
 - 資源管理の効果やMSY管理の意味、資源評価の精度・信憑性に疑問。
 - 試験的に実施するなど段階的に進めていただきたい。
 - 漁場形成や他の魚種との需要のバランスによる漁獲や、混獲によって漁獲されている魚種であるため、わざわざ多大な労力をかけてTACで管理する意味が不明。
- 定置網
 - ウルメイワシやカタクチイワシのような混獲される魚種について資源管理を行うことは非常に難しい。
 - 放流を試みた場合は、網の中にいる魚は全部逃げてしまい水揚げは皆無になり、漁獲管理を行うことは経営的に死活問題。
 - 県別・魚種別・漁業種類別統計について、少なくとも直近3年分を農林水産省HPで公表もしくは資源評価報告書へ掲載してほしい。

3. 本部会で議論する事項について (1) 全体に関する御意見 (2/3)

参考人からの御意見	御意見の内容
紀州勝浦漁業協同組合 代表理事組合長	本資源は、漁獲量の年変動や地域間の差異が大きいことから、数量管理を導入する場合は、これらを考慮した柔軟な管理制度が必要と考えます。
宮崎県旋網漁業組合 組合長	ウルメイワシは、まき漁業においても主要な漁獲対象となっており、鮮魚出荷のみならず、本県水産加工業における原材料として重要な魚種である。MSY(最大持続生産量)を目指す資源管理目標にできなかったのはなぜか。
千葉県旋網漁業協同組合 副組合長	<p>ウルメイワシは、サバ、マイワシ等を狙う操業での混獲が多い。このため、漁獲量は、サバ、マイワシ等の漁獲状況にも大きく左右される。</p> <p>混獲が主体で漁獲量変動が大きいため、配分されたTACでは不足し、もともと狙っている魚種の操業が大幅に制限されてしまい、まき網漁業の経営が成り立たなくなるおそれがある。TACの導入は、この問題を解決することが前提と考える。</p> <p>環境の影響を受けやすく変動を繰り返す魚種であることから、資源管理の効果がどの程度あるのか、疑問である。MSY管理の意味も理解しがたい。</p> <p>環境の影響が大きいうえ、狙って漁獲することが少ないため、漁獲量と資源量との関係が薄い。このため資源評価の精度・信頼性に疑問がある。</p> <p>先行するTAC魚種の資源評価や資源管理方法は、20年以上も試行錯誤された結果である。ウルメイワシでは、上記の問題点があるため、先行魚種の当初からの問題点や改善結果等を参考にして、必要なステップを踏んで問題解決をしながら、検討を進めていただきたい。TAC化する場合でも、まずは試験的に実施して、その結果の評価、必要な改善策の導入など、段階的に進めていくようお願いしたい。</p>
愛媛県まき網漁業協議会 会長	愛媛県まき網漁業協議会の会長としてまき網漁業の調整を行っており、自らも中型まき網漁業を操業し、主にウルメイワシ等を漁獲している。近年では2015年をピークとして、漁獲量が減少傾向にあることから、今後の資源量について危惧しており、資源管理の必要性を感じている。
高知県定置漁業協同組合 副組合長	<p>定置網漁業は「待ちの漁業」であり、ある一定の魚種を狙って漁獲するものではない。今回の対象資源であるカタクチイワシやウルメイワシについても、混獲されるだけで、狙って漁獲しているわけではなく、獲れる時期も年によって異なる。</p> <p>これらの魚種について資源管理を行うとすれば、網目の拡大や休漁といった措置しかないかと思うが、網目を拡大した新たな網を用意するには莫大な費用がかかるうえ、安価なウルメイワシやカタクチイワシを逃がすために休漁するとなると本末転倒である。</p> <p>定置網漁業だけ資源管理をしないというわけにはいかないが、ウルメイワシやカタクチイワシのような混獲される魚種について資源管理を行うことは非常に難しいと考える。</p>
一般社団法人漁業情報サービスセンター 東北出張所 所長	仙台湾では2015～2020年に海水温が急上昇し、ウルメイワシなど多くの魚類が増加しています。逆に太平洋南～中部海域では多くの魚種が減少傾向を示しています。この期間の世界の平均水温の急上昇は130年間の観測期間の中で最大となり、多くの暖水魚が北限を超えて北上しています。親魚量水準を推定する卵の分布も大きく変化している可能性があります。漁獲減少の原因については、このような急激な環境変化についても考慮する必要があると思います。

3. 本部会で議論する事項について (1) 全体に関する御意見 (3/3)

意見表明者の御意見	御意見の内容
千葉県漁業協同組合 連合会	<p>【銚子～外房地域(まき網)】 中型まき網漁業と大中型まき網漁業(19トン以下)は、操業場所が地先に限られますので、その時その時で地先沿岸に来遊する魚種(イワシ、サバ、ブリ、アジ等)を市況を見ながら漁獲しています。ウルメイワシは主な対象魚種ではありませんが、地先での漁場形成や他の対象魚種との需要のバランスによっては漁獲対象となるか、あるいは混獲により漁獲されることがあります。このような漁業を、わざわざ多大な労力をかけてTACで管理する意味が良く分かりません。 また、ウルメイワシがTAC魚種に指定された場合、具体的にどの程度の制限がかかるのか、良く分かりませんので、国へわかりやすい説明を求めたいと思います。</p> <p>【南房総地域(定置網)】 地域全体で大型・小型定置網約20ヶ統が実働しています。近年の太平洋海域は、地球規模的な温暖化による海水温度の上昇によって、数年前から回遊性魚種の減少、外来種の拡散や高水温帯魚種の定着、磯焼けにより海藻類が消えアワビ・サザエが激減するなど、中・高級魚介類の減少が始まっています。 既に三陸沖合から北海道の太平洋海域では、従来回遊しなかった魚が大量に漁獲されるなど、北上する魚種が増え始めています。これまで定置網漁業は、自然環境変化の中でも一番安定した漁法と言われてきましたが、台風や急潮による施設被害によって、年々漁獲量が減少するとともに水揚げが不安定となっています。 この様な環境の中で、従前定置網のウルメイワシは、安定した漁獲量を維持していましたが、数年前から漁獲量が激減し、回復の兆しが見えない状況にあり、併せて、当該魚種を餌とする回遊性のサバ、ブリ類、スズキ等の漁獲量も減少傾向にあります。また、定置網は自然に入網した魚を獲る漁法で魚の色分けはできないため、放流を試みた場合は、網の中にいる魚は全部逃げ水揚げは皆無となってしまいます。 現在、クロマグロは放流するなど最大限の資源管理を行っている中で、当該魚種がTAC管理され、漁獲制限が発動された場合は休漁せざるを得なくなります。近年の漁獲状況は極めて低調で、更なる漁獲管理を行うことになった場合は、経営的に死活問題となりますので、当該魚種のTAC管理に反対致します。</p>
一般社団法人日本定置漁業協会 専務理事	<p>県別・魚種別・漁業種類別統計は、現時点で農林水産省HPにより令和元年度しか公表されていない。TACがどの県でどの漁業種類で設定されるのかを予測するためにも、少なくとも直近3年分については公表を行うよう要望する。農林水産省HPによる全魚種の公表が間に合わない場合、せめて資源評価報告書には掲載して欲しい。</p>

3 (2) 各論に関する御意見

①検討の対象となる水産資源の漁獲報告の収集体制の確認

- 全体
 - 漁獲報告の収集体制を論じる以前に、そもそもTAC管理が適切か疑問。
 - 収集範囲の拡大、資源特性値を含めた知見の収集が必要。
- まき網
 - 漁協を通じて県に電子的な報告を行う体制や、漁業者や現場に負担がかからない収集体制、水揚げ場所の漁獲量をまとめて報告できるシステムが必要。
- 定置網
 - 他のイワシ類との「混じり」で一括報告される場合は、漁獲集計方法を知りたい。

参考人からの御意見	御意見の内容
宮崎県旋網漁業組合 組合長	漁協を通じて、県に電子的な報告を行う体制が整備されている。
千葉県旋網漁業協同 組合 副組合長	既存TAC魚種のように市場仕切書ベースでの漁獲報告となろうが、負担増が懸念される。市場により、実態が異なることが考えられ、各水揚地で市場関係者の協力で漁業者、現場に負担がかからない収集体制を構築する必要がある。
愛媛県まき網漁業協 議会 会長	各漁業者で水揚げする場所が異なるため、漁獲量の報告手続きが煩雑である。水揚げする場所が異なっても、漁獲量をまとめて報告できるようなシステムが必要。
一般社団法人漁業情 報サービスセンター東 北出張所 所長	漁場が仙台湾～三陸の広範な海域に拡大しているので、収集範囲を拡大する必要があります。東北海域のウルメイワシについては資源特性値を含めた知見の収集が必要と考えられます。
意見表明者の御意見	御意見の内容
千葉県漁業協同組合 連合会	カタクチイワシと同様に、そもそもTAC管理が適切かどうか疑問であり、漁獲報告の収集体制を論じる以前の問題であると考えます。
一般社団法人日本定 置漁業協会 専務理 事	ウルメイワシの漁獲量については、他のイワシ類との「混じり」で一括して報告される場合もあるのでしょうか？ある場合は漁獲量集計方法はどのように行っているのでしょうか？

3 (2) 各論に関する御意見

②資源評価結果に基づく資源管理目標の導入に当たって考慮すべき事項

- 全体
 - 目標の導入を論じる以前に、そもそもTAC管理が適切か疑問。
 - 環境変化や漁場の北上の影響を配慮した資源評価が必要。
- まき網
 - 令和2年に卵密度が大きく減少した理由を知りたい。
 - 変動が大きい資源であり、資源評価の精度・信頼性に疑問。
 - 漁業者の収益が減少することからイワシ、アジ、サバ以外の魚種を漁獲可能とするような配慮が必要。
- 定置網
 - 漁獲制限は漁獲全体を一時的に停止する全面休漁となるため、全水揚に占めるウルメイワシの割合が小さい中で同意を得るには、十分な科学的根拠をもって説明する必要がある。

参考人からの御意見	御意見の内容
宮崎県旋網漁業組合 組合長	2020年に卵密度が大きく減少した理由は何か？
千葉県旋網漁業協同 組合 副組合長	変動が大きい資源であり、資源評価の精度・信頼性に疑問がある。「資源量指標値」による資源評価精度で管理ができるのか。
愛媛県まき網漁業協 議会 会長	漁業者の収益が減少することからイワシ、アジ、サバ以外の魚種を漁獲できるような配慮が必要。
一般社団法人漁業情 報サービスセンター 東北出張所 所長	環境変化や漁場の北上の影響を配慮した資源評価が必要です。 宮城県の漁獲量は少量であり、漁獲の主体は定置網です。定置網には多数の魚種が入網するので、定置網の全水揚に占めるウルメイワシの割合は小さいです。しかし、定置網の漁獲制限は、漁獲全体を一時的に停止する全面休漁しかありません。 このため、定置網漁業者の同意を得るには十分な科学的根拠をもって説明する必要があります。
意見表明者の御意見	御意見の内容
千葉県漁業協同組合 連合会	カタクチイワシと同様に、そもそもTAC管理が適切かどうか疑問であり、目標の導入を論じる以前の問題であると考えます。

3 (2) 各論に関する御意見

③検討すべき漁獲シナリオの選択肢、漁獲シナリオを採択する際の注意事項

- 全体
 - 目標の導入を論じる以前に、そもそもTAC管理が適切か疑問。
 - 環境変化や漁場の北上の影響を配慮した資源評価が必要。
- まき網
 - 漁業経営に影響を与えるような急激な漁獲量の規制が生じないよう検討いただきたい。
 - 変動が大きい資源であり、資源評価の精度・信頼性に疑問。
 - 資源量が最低水準になる前に、漁獲規制などの資源管理措置が必要。早め早めに手を打っていくことで、資源量の回復も早くなることが期待できる。
- 定置網
 - 漁獲制限は漁獲全体を一時的に停止する全面休漁となるため、全水揚げに占めるウルメイワシの割合が小さい中で同意を得るには、十分な科学的根拠をもって説明する必要がある。

参考人からの御意見	御意見の内容
宮崎県旋網漁業組合 組合長	漁業経営に影響を与えるような急激な漁獲量の規制が生じないよう検討いただきたい。
千葉県旋網漁業協同 組合 副組合長	変動が大きい資源であり、資源評価の精度・信頼性に疑問がある。
愛媛県まき網漁業協 議会 会長	資源量が最低水準になる前に、漁獲規制などの資源管理措置が必要である。早め早めに手を打っていくことで、資源量の回復も早くなることが期待できるため、目標達成までの期間を短くすることができると思われる。
一般社団法人漁業情 報サービスセンター 東北出張所 所長	②と同じです。
意見表明者の御意見	御意見の内容
千葉県漁業協同組合 連合会	カタクチイワシと同様に、そもそもTAC管理が適切かどうか疑問であり、目標の導入を論じる以前の問題であると考えます。

3 (2) 各論に関する御意見

④数量管理を導入・実施する上での課題及びそれら課題への対応方向 (1/2)

- 全体
 - 都道府県間で漁獲量の差異が大きいため、漁獲量の多寡に配慮した管理体制が必要。
 - 漁獲量の積み上がりが予測し難く、予期せずに配分量を消化してしまうことも容易に起こりえるため、配分量の融通がスムーズに行えるような管理制度が必要。
 - 環境変化や漁場の北上の影響を配慮した資源評価が必要。
- まき網
 - 漁獲可能量の全体量・留保枠も少ない中で、漁獲の偏りが生じた場合に、公平かつ速やかにTACを配分する仕組みづくりが必要。
 - 漁獲量の変動が大きいことから、TAC配分と実際の漁獲状況が一致しにくいことを前提に管理すべき。
 - 混獲が多いため、仮にTACが足りずに操業がストップすれば、もともと狙っている魚種まで獲れなくなり経営が倒れかねない。柔軟な管理方法とすべき。
 - 同じ資源を漁獲するすべての漁業者が理解し、取り組むこと。話し合いを重ねるしかない。
- 定置網
 - 漁法特性から他の魚種の水揚げも困難になってしまう場合にはウルメイワシの混獲水揚げも認めて欲しい。
 - 漁獲制限は漁獲全体を一時的に停止する全面休漁となるため、全水揚げに占めるウルメイワシの割合が小さい中で同意を得るには、十分な科学的根拠をもって説明する必要がある。

3 (2) 各論に関する御意見

④数量管理を導入・実施する上での課題及びそれら課題への対応方向 (2/2)

参考人からの御意見	御意見の内容
紀州勝浦漁業協同組合 代表理事組合長	本資源は、都道府県間で漁獲量の差異が大きいため、数量管理を導入する場合は、漁獲量の少ない都道府県に配分量を明示しない等、漁獲量の多寡に配慮した管理制度が必要と考えます。 また、本資源を対象とする漁業の中には、通常はアジサバ類やマイワシを狙い、これらの不漁時にウルメイワシを狙って漁獲するものもあります。したがって、漁獲量の積み上がりが予測し難く、予期せずに配分量を消化してしまうことも容易に起こりえます。こういった場合に漁業者や加工業者への影響を緩和するため、配分量の融通がスムーズに行えるような管理制度が必要と考えます。
宮崎県旋網漁業組合 組合長	漁獲可能量の全体量・留保枠も少ない中で、漁獲の偏りが生じた場合に、公平かつ速やかにTACを配分する仕組みづくり。
千葉県旋網漁業協同組合 副組合長	漁獲量の変動が大きいことから、TAC配分と実際の漁獲状況が一致しにくいことを前提に管理すべき。混獲が多いため、仮にTACが足りずに操業がストップすれば、もともと狙っている魚種まで獲れなくなり、経営が倒れかねない。柔軟な管理方法とすべき。
愛媛県まき網漁業協議会 会長	同じ資源を漁獲するすべての漁業者が理解し、取り組むこと。話し合いを重ねるしかないのでは。
一般社団法人漁業情報サービスセンター 東北出張所 所長	②と同じです。
意見表明者からの御意見	御意見の内容
千葉県漁業協同組合連合会	(1)に記載のとおりそもそも数量管理にはなじまない魚種であると考えます。
一般社団法人日本定置漁業協会 専務理事	同系群については、宮崎県や高知県で県別のTAC配分が行われる可能性がある。各県内での定置網の漁獲量比率は低いものの、県別のTACが上限に達するなど、ウルメイワシの漁獲制限が行われる場合、定置網でウルメイワシが混獲した際に、ウルメイワシの水揚げが一切認められなくなると、箱網内の魚種構成としてウルメイワシが大半である場合であれば逃がすことも可能であるが、その他の魚種の割合も多い場合には、定置網の漁法特性から他の魚種の水揚げも困難になってしまう。そのような場合にはウルメイワシの混獲水揚げも認めるようにして欲しい。

3 (2) 各論に関する御意見

⑤数量管理以外の資源管理措置の内容（体長制限、禁漁期間等）

- 全体
 - 「地先沿岸に魚群の来遊があれば漁獲」あるいは「混獲」という現在の操業形態。
- まき網
 - 旧暦15日～19日における休漁や産卵親魚の保護。
- 定置網
 - 漁獲圧と漁獲量が小さいので、資源管理措置の必要性は小さいと考える。

参考人からの御意見	御意見の内容
宮崎県旋網漁業組合 組合長	旧暦15日～19日における休漁を実施している。
愛媛県まき網漁業協 議会 会長	資源量が減少している場合には産卵親魚の保護が必要。
一般社団法人漁業情 報サービスセンター 東北出張所 所長	仙台湾～三陸では定置網主体の漁獲であり、漁獲圧と漁獲量が小さいので、資源管理措置の必要性は小さいと考えられます。

意見表明者の御意見	御意見の内容
千葉県漁業協同組合 連合会	「地先沿岸に魚群の来遊があれば漁獲」あるいは「混獲」という現在の操業形態は、十分資源の保護に寄与しているものと考えます。

3 (2) 各論に関する御意見

⑥ 予め意見を聞くべき地域、漁業種類、関係者等の検討

- 地域 ➤ 千葉県、宮崎県、高知県
- 漁業種類 ➤ 大中型まき網漁業、まき網漁業、定置漁業
- 関係者 ➤ 市場関係者、加工業者、定置網漁業関係者
- その他 ➤ まき網業者が月休みとなる旧暦15～19日の時期が望ましい

参考人からの御意見	御意見の内容
宮崎県旋網漁業組合 組合長	ウルメイワシ資源の意見を聞く時期について、資源に関係が深いまき網業者が月休みとなる旧暦15～19日が望ましい。
千葉県旋網漁業協同 組合 副組合長	漁獲報告には市場関係者の協力が必要であることから、市場関係者から現状や意見等を聴く必要があるのではないかと。
愛媛県まき網漁業協 議会 会長	漁獲圧の大きい大中型まき網漁業
一般社団法人漁業情 報サービスセンター 東北出張所 所長	定置網漁業関係者
意見表明者の御意見	御意見の内容
千葉県漁業協同組合 連合会	地域: 県内全域 漁業種類: まき網漁業、定置網漁業 関係者等: 加工業者
一般社団法人日本定 置漁業協会 専務理 事	宮崎県や高知県の定置漁業者

3 (2) 各論に関する御意見

⑦ステークホルダー会合で特に説明すべき重要事項

- 全体
 - 現状漁業者は、国が「漁業者及び漁業者団体の意見を十分かつ丁寧に聴き、現場の実態を十分に反映」しているとは思っていない旨をきちんと説明していただきたい。
 - 温暖化による水温上昇で漁場が北上しており、このことも、漁獲に加えて、資源減少に影響を及ぼしている可能性があることを説明していただきたい。
- まき網
 - 資源評価の水準や問題点を既存のTAC魚種と比較や、漁獲データを資源評価にどのように使っているのか、他の魚種と比較して精度はどうか、また、人による管理の効果はどの程度あるかについて、過去の資源変動を例にとり、環境の影響と人為的な管理効果とを対比して説明いただきたい。
 - 今後の資源動向に関する予想や、効果的な資源管理方法の提言。

参考人からの御意見	御意見の内容
千葉県旋網漁業協同組合 副組合長	資源評価の水準や問題点を既存のTAC魚種と比較 「食われる」魚で環境の影響が大きいため、人による管理の効果はどの程度あるのか疑問。過去の資源変動を例にとり、環境の影響と人為的な管理効果とを対比して説明いただきたい。 混獲が多いウルメイワシで、漁獲データを資源評価にどのように使っているのか、他の魚種と比較して精度はどうか。
愛媛県まき網漁業協議会 会長	今後の資源動向に関する予想。 効果的な資源管理方法の提言。
一般社団法人漁業情報サービスセンター 東北出張所 所長	温暖化による水温上昇で漁場が北上しており、このことも、漁獲に加えて、資源減少に影響を及ぼしている可能性があることを説明していただきたい。
意見表明者の御意見	御意見の内容
千葉県漁業協同組合連合会	現状漁業者は、国が「漁業者及び漁業者団体の意見を十分かつ丁寧に聴き、現場の実態を十分に反映」しているとは思っていない旨をきちんと説明していただきたい。

3 (2) 各論に関する御意見

⑧管理対象とする範囲（大臣管理区分、都道府県とその漁業種類）

- 全体 ➤ そもそも数量管理にはなじまない魚種。
- まき網 ➤ 同じ資源を活用するすべての漁業種類。
- 定置網 ➤ 宮崎県と高知県の中小型まき網。大型定置網。

参考人からの御意見	御意見の内容
愛媛県まき網漁業協議会 会長	同じ資源を活用するすべての漁業種類。
意見表明者の御意見	御意見の内容
千葉県漁業協同組合連合会	(1)に記載のとおりそもそも数量管理にはなじまない魚種であると考えます。
一般社団法人日本定置漁業協会 専務理事	宮崎県と高知県の中小型まき網

(3) そのほかの御意見

- まき網
 - 今後、日本の漁業をどのようにしていきたいのか、水産庁の意見を聞きたい。

参考人からの御意見	御意見の内容
宮崎県旋網漁業組合 組合長	最大持続生産量(MSY)を目標とする新たな資源管理に取り組む一方で、漁業者は減少しているが、今後、日本の漁業をどのようにしていきたいのか、水産庁の意見を聞きたい。漁獲の制限だけを行っても漁業者が疲弊するので、少ない資源、限られた人員でも経営が成り立つような漁業の仕組みづくりや支援が必要と考える。

3. 本部会で議論する事項について

(4) 御意見や論点のまとめ (案)

※検討部会における議論を踏まえ、
論点や意見は追加・修正される見込み

● 漁獲等報告の収集について

- 現場に過度な負担がかからない体制の構築や所属漁協以外の水揚げへの対応を検討する必要がある。
- 漁獲報告の収集範囲の拡大、資源特性値を含めた知見の収集が必要。
- 他のイワシ類との「混じり」で報告される場合があるのか。その場合の漁獲量の集計方法はどのようなのか。
- 漁業者・団体等が管理の検討に当たって必要なデータを適切に公表すべき。

● 資源評価について

- 変動が大きい資源であり、資源評価の精度・信頼性に疑問がある。
- 環境変化や漁場の北上の影響を配慮した資源評価が必要。

● 資源管理について

- 資源量が最低水準になる前に、漁獲規制などの資源管理措置が必要。
- TAC管理の導入には慎重を期すべき。
- 混獲が主体であり、もともと狙っている魚種の操業が制限されてしまうことを懸念。
- TAC管理を導入する場合でも、試験的に実施するなど段階的に進めることや、漁獲量の年変動や地域間の差異が大きいことから、配分量の融通や留保の活用など柔軟な管理制度が必要。
- 漁業経営に影響を与えるような急激な漁獲量の規制が生じないように検討すべき。

● SH会合で特に説明すべき重要事項について

- 既存のTAC魚種と比較した水準や問題点等、温暖化による水温上昇などを含む環境の影響と人為的な管理効果を対比した説明が必要。
- 今後の資源動向に関する予想や、効果的な資源管理方法を提言して欲しい。

4. 今後について

新たな資源管理の検討プロセス

①	資源評価結果の公表	<ul style="list-style-type: none">令和3(2021)年3月に神戸チャート公表令和3(2021)年9月に将来予測を含めた結果公表
②	資源管理手法検討部会	<ul style="list-style-type: none">令和3(2021)年11月に開催参考人等からの意見や論点を整理
③	ステークホルダー会合 (資源管理方針に関する検討会)	<ul style="list-style-type: none">②で整理された意見や論点を踏まえ、具体的な管理について議論必要に応じ、複数回開催し、管理の方向性をとりまとめ
④	資源管理基本方針の策定	<ul style="list-style-type: none">③でとりまとめられた内容を基に、資源管理基本方針案を作成パブリックコメントを実施した後、水産政策審議会資源管理分科会への諮問・答申を経て決定
⑤	管理の開始	

本日はここ